平成 23 年度事後評価・決算

事務事業マネジメントシート

事務事業名	中山間地域等直接支払制度	所属部	産業振興部	所属課	農林振興課
	総 合 〈V〉賑わいあふれる雲南市《産業・雇用》	所属G	農業生産グループ	課長名	高野 耕治
施策名		担当者名	福間 伸英	電話番号	0854-40-1051 3703
基本事業名	体系 〈096〉生産基盤の整備・保全	予算 科目	会計 款 項 I 0 1 3 0 0 5 8		中山間地域等直接支 払制度交付金

1 現状把握の部

(1)事業概要

\'\T\M\X								
①事業期間	(③開始した						
① 本 未 初 l l l	②事業の内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	(いつ頃どんな経緯で開始されたのか?)						
□ 単年度のみ	耕作放棄の増加等により多面的機能の低下が特に懸念されて	いる	平成12年月	度から始まった	国の施策に	基づく事	業であ	
	中山間地域等において、担い手の育成等による農業生産の維	辪	る。農業生活	産活動を継続し	農地を保全	全すること	こにより	
┏ 単年度繰返	を通じて、多面的機能を確保する観点から、協定を策定した者	15 1	農地が持つ	つ多面的機能を	維持してい	くことを目	目的とし	
(年度~)	中山間地域等直接支払交付金を交付する。	-	て、中山間	地域の農地に	対し地域との	の生産コ	スト差	
☑ 期間限定複数年度		l	に相当する	交付金を交付	する農政史	上初の制	削度で	
(22 年度 ~ 26 年度)		č	ある。					
		単位	21年度 2	22年度 23年度	24年度	25年度	全体	
(2)トータルコスト		中心	(決算) ((決算) (決算)	(計画)	(計画)	計画	

①事業費の内訳(概要)

中山間地域は平地に比べ傾斜地が多いなど、生産条件が 不利なため、傾斜地に応じ交付金を交付する。 218協定(集落215、個別3)に対する交付金

318,423千円

②延べ業務時間の内訳(業務の流れ等)

①協定書作成・指導事務②交付金交付事務 ③協定書履 行確認事務

		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	至14
		丰四	(決算)	(決算)	(決算)	(計画)	(計画)	計画
	財工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	千円	176,961	157,923	159,211	161,000	161,000	816,095
事		千円	88,480	78,961	79,605	80,500	80,500	408,046
業		千円						
	₌₌ その他	千円						
貝	一般財源	千円	88,488	78,963	79,607	80,500	80,500	408,058
	事業費計(A)	千円	353,929	315,847	318,423	322,000	322,000	1,632,199
人	正規職員従事人数	人	7	7	7			
件	延べ業務時間	時間	4,480	4,480	4,480			
費	人件費計 (B)	千円	17,087	17,418	17,660	0	0	
 	ータルコスト(A)+(B)	千円	371,016	333,265	336,083	322,000	322,000	1,632,199

(3) 事務事業の手段・日的・上位日的及び対応する指標

<u> </u>	<u>,子切子未以了权 自时 工匠自时及0分形;</u>	_ ~	<u> </u>								
	① 主な活動 23年度実績(23年度に行った主な活動)	5	<u>(5)</u>	指標名 指標名 活動指標	単位	21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度 (目標)	最終 (目標)
	事務推進、交付金事務			協定対象面積	ha	2,288	2,288	2,288	2,288	2,288	2,288
手			イ	交付金額	千円	353,929	315,847	318,423	320,000	320,000	320,000
段	24年度計画(24年度に計画している主な活動)		ウ	協定集落	集落	233	217	218	218	218	218
	平成23年度と同様		エ								
			オ								

	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	H	6	指標名 対象指標	単位	21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度(目標)	25年度 (目標)	最終 (目標)
	・傾斜のある農地・対象集落		ア	協定面積	ha	2187	1,996	2,010	2,020	2,020	2,020
目			イ	対象集落	集落	233	523	523	523	523	523
的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)		7	成果指標							
н.			ア	協定集落	集落	233	217	218	218	218	218
	・対象集落が協定を締結して集落内農地を 5年間以上維持してもらう。		イ	協定集落のカバー率	%	44.19	41.49	41.68	41.68	41.68	41.68
			ウ								
上	④ 結果(どんな上位目的に結び付けるのか)		8.	上位成果指標							
位日	・農業所得の向上		ア	市内の農業所得総額	億円	▲ 3.2	▲ 3.4	▲ 2.3	▲ 2.6	▲ 2.6	▲ 2.6
目的	*展果川侍の川上		イ								

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

(① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は
	どう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比
1	べてどう変わったのか?

中山間地域における農業経営の不利性により 農業従事者の減少や農地の荒廃化が進展して いるが、事業導入により耕作放棄地の発生が 抑制されたり、集落ぐるみでの農業経営に発展 する集落が増えつつある。

②この事務事業に関する これまでの改革改善の取り組み経緯

集落協定に記載されている計画を確 実に実行してもらうことにより、耕作放 棄地の減少、多面的機能を確保され、 農地の荒廃を防ぐことができた。

③この事務事業に対して関係者 (市民、議会、事業対象者、利害関係者等)から どんな意見や要望が寄せられているか?

- ・農地の荒廃を防ぎ、国土保全や地域環境保全に 貢献した。(協定集落内農業者)
- ・集落ぐるみの農業を考える契機となった。(協定 集落内農業者)
- ・事業継続の要望(議会・JA・協定集落内農業者)

雲南市(H22年4月改正版)ver.1.1

		事務事業名	中山間地域等	直担	接支払制度		所属部	産業振興部	所属課	農林振興課
_2		評価の部(SEE) *		価.						
		①政策体系との割		┖	見直し余地がある 結びついている		事事】シ	⇒3 今後の方向	性・改革改善	に反映
		この事務事業の目的 策体系に結びつくか が結果に結びついて	、?意図すること		本事業を実施するこ 多面的機能の維持・					と営の継続が図られ、農業・農村の
Ē	的妥	② 公共関与の妥	当性		見直し余地がある 妥当である		事事】シ	⇒3 今後の方向	性・改革改善	に反映
14	4	なぜこの事業を市() ればならないのか? て、達成する目的か	税金を投入し		関係法令等により市 間地域集落における	が予算	- ▼ を計上し事			ている。また国土の保全及び中山
		③ 対象・意図の3			見直し余地がある適切である		単プ	⇒3 今後の方向	性・改革改善	に反映
		対象を限定・追加す 限定・拡充すべきか			農用地の制限はある			け象となっており適ち	刃である。	
Ŀ		④ 成果の向上余]	向上余地がある			⇒3 今後の方向	性・改革改善	に反映
		成果を向上させる余成果の現状水準と			向上余地がない ************************************		出由プラ	まに安全に個との供	対ながわるで細胞	話の知油も回ファレジン画べもり
		差異はないか?何だ 上が期待できないの	が原因で成果向	5	集落協定に記載され 集落の更なる計画的					題の解決を図ることが必要であり、
	有	⑤ 廃止・休止の原	成果への影響	□□	影響無 ⇒【理由 影響有 ⇒【その		<u>ئ</u>	⇒3 今後の方向	性・改革改善	に反映
т.		事務事業を廃止・休響の有無とその内容		-				売が危ぶまれると同 覧	時に、農地の荒	廃化が加速することが危惧され
1	半西	⑥ 類似事業との紹 可能性	統廃合・連携の		他に手段がある	2 (1	具体的な	F段, 事務事業)		
		目的を達成するには 以外他に方法はない との統廃合ができる	いか?類似事業		□ 統廃合・連携が □ 統廃合・連携が	できな	い ⇒【理	· · · - •		改革改善に反映
		の連携を図ることに上が期待できるか?	より、成果の向		関係事業としては、原 分けを整理した推進 他に手段がない	が引き	続き必要で		、争未り座日か	4共なり(いるにめ、現在の後み
-		⑦ 事業費の削減	余地		削減余地がある 削減余地がない	⇒ 【理	曲】つ	⇒3 今後の方	方向性·改革改	女善に反映
	効	成果を下げずに事業ないか?(仕様やエ 民の協力など)			関係法令等により全		- •	 番が定められている	ため削減の余り	也はない。
1	生泙	⑧ 人件費(延べ業 減余地	業務時間)の削		削減余地がある 削減余地がない		曲】つ	⇒3 今後の方	方向性·改革改	女善に反映
l	曲	がり方の工夫で延っ 減可能か?成果を「 以外や委託でできた	下げずに正職員	-	協定の変更、農地の	確認、 复雑な7	収支報告書 ため現状の	体制を維持しつつ気	集落支援を行な	会合センターの協力を得ながら実 さわなければ協定実施集落が制度
	公	⑨ 受益機会·費用 化余地			見直し余地がある	⇒ 【理	曲】为	⇒3 今後の方		女善に反映
1	生	事業内容が一部の	受益者に偏って		公平・公正である		•	28 [.] # 1 2	07.07.	l. vr
1	西	いて不公平ではない担が公平・公正か?	•		制度上の制限はある				、公平・公正で	かる
		<u>評価結果の総括。</u> 1次評価者として		<u>(</u> 次	(年度計画と予算・	<u>への反</u>		N) 体総括(振り返り	、反省点)	
		① 目的妥当性	□ 適切		□ 見直し余地 ☑ 見直し余地	あり	らえ	れた交付金を活用	月していく上で	見直す余地はない。しかし、限 、有効な活用方法を集落単位 で定めた以上の成果の向上が
		③ 効率性④ 公平性	☑ 適切 ☑ 適切		□ 見直し余地□ 見直し余地			込める。また、そ <i>0</i> 化を図る必要があ	5る。	係機関が一体となった指導の
	[□	今後の事業の方 廃止 □休止 事業のやり方改善(事業のやり方改善(□目的再設 有効性改善)		□ 事業統廃合 □ 事業のやりっ	5改善(善) 草改善をしない)	(4) 改革・改善による期待成果 コスト 削減 維持 増加 点
	,	3期目は平成22年, ステップを目指す』 る。								成 維 × × × (廃止・休止の場合は記入不要)
((5)	改革, 改善を実現	見する上で解決:	すへ	(壁)とその	り解決	策			(が) ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロ
		特になし								